

## ディスコグラフィー掲載

### ディスコグラフィー【2014No.11】(HP 掲載)

分類：CD

作曲家：ヨハン・セバスチャン・バッハ

曲名：管弦楽組曲 1 番～4 番

演奏：コンチェルト・ケルン

発売：BERIN CLASSICS

No.：0300061BC



概要：

コンチェルト・ケルンは、Freiburger Barockorchester およびベルリン古楽アカデミーとともに三つのメジャーなドイツの古楽器アンサンブルで、奇しくもこれらすべてを聴くことができました。

聴いてきたのは、バッハとヘンデルの管弦楽とカンタータのコンサートですが、このCD はバッハの管弦楽組曲で、NXOS Music Library の下記サイトで試聴ができます。

<http://ml.naxos.jp/album/0300061BC>

Freiburger Barockorchester およびベルリン古楽アカデミーはバッハのブランデンブルグ協奏曲を聴き、また CD も同じ曲をディスコグラフィーの No1 から No.3 で紹介しました。

今回、聴いてきたコンチェルト・ケルンのメンバーは選抜メンバーと客員メンバーで構成され、ソプラノがヨハネッテ・ゾマー、バロックオーボエがズザンネ・レーゲル、コンサートマスターには平崎真弓が招聘されていました。アンサンブル、オーボエそしてソプラノとも息があっていましたが、古楽器らしい雅で美しい音色がしていました。三つのアンサンブルがどうかと聞かれれば、Freiburger Barockorchester およびベルリン古楽アカデミーに比べて、開放的でフレッシュな演奏スタイルのように感じました。これら三つのアンサンブルは、3 大アンサンブルと言われるだけあって、いずれも魅力

的ですが、こういうフレッシュで近代的なスタイルもいいのではないかと思います。



CD の印象はといえば、管弦楽組曲の金管の入った華やかな曲や楽章以外の印象は、当日聴いてきた下記のバッハの曲の音色を彷彿とさせるものです。

**J.S.バッハ：オーボエ・ダモーレ協奏曲 イ長調 BWV1055**

**J.S.バッハ：消え去れ、悲しみの影◆BWV202（結婚カンタータ）**

昔ミュンヒンガー・シュトゥットガルト室内管弦楽団やコレギウム・アウレウムの管弦楽組曲のアナログを繰り返し聴いた思い出が蘇ってきました。